

# 社会の授業の机間指導における授業改善

～個々の状態に応じた支援のあり方についての工夫～

南姫中学校 社会科 市川 智英

## 1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・ 個での追究の場での机間指導

## 2 具体的な実践

(1) 授業の中で「個への補足的支援」と「個への発展的支援」を明確に位置づける。

◆「進むヨーロッパ統合」での「個への補足的支援」と「個への発展的支援」

【個への補足的支援】

ヨーロッパが統合することで、どんな良いことがあるのかという視点で考えるように促す。

【個への発展的支援】

「なぜヨーロッパはヨーロッパという1つの国にならず、国境を残しているか」を考えるように促す。

机間指導を行うにあたって、教師がただ動き回って、質問に対応しているだけという状態になっていないだろうか考えた。そこで、机間指導でどのような支援が必要かを、生徒の実態から考えて事前に明確にするため、評価基準Cの生徒を評価基準Bにするための「個への補足的支援」と評価基準Bの生徒を評価基準Aにするための「個への発展的支援」を位置づけることとした。

また、机列表に前時までの学習状況から評価基準のどこにあたるかを明確にして、評価基準Cにあたる生徒には、必要な支援が必ず行われるようにした。この取り組みの後、生徒には以下のような変容が見られた。

- ・ 個人追究で何もできないで止まっている生徒が少なくなった。
- ・ 読み取りができていた生徒に発展的な課題を与えることで、さらに理解を深めることにもつながった。

(2) 毎時間の学びをもとに机列表作成を行う

毎回の授業の後、まとめを記入した一枚の資料を回収し、「キーワードの理解ができているか。」「資料からの読み取りが個人でできているか。」という観点で、机列表を作成することとした。こうすることで、どのような支援が誰に必要なのかが明確になり、効率的に机間指導を行うことができるようになった。この学習の後、生徒に以下のような感想が見られた。



- ・ 僕は資料で調べるとき、何を見ていいかわからなかったけど、先生がどこをみればいいのか教えてくれて、少し自分で書けるようになってよかったです。

## 3 実践を振り返って考えられること

机間指導は実態把握のためだけでなく、つまづいている生徒や、頭打ちになっている生徒へ必要な支援を行うための場でもある。机間指導を、個々人に応じた意図をもって行うことで、生徒の学びが深まるということが実感できた。